



## 川に、おんぶしたアメンボが、たくさんいたのはなぜなの

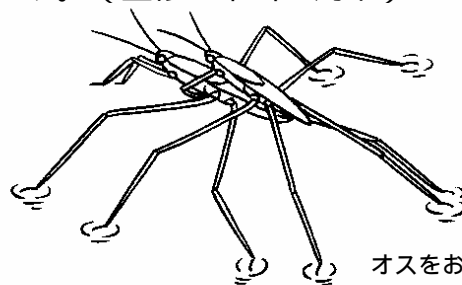
### おんぶされているのは、オスのアメンボ

4～5月ごろ、池や、流れのゆるやかな川のふちなどに行くと、背中に1ぴきおんぶしたアメンボが、あちこちで見られるはずです。これは、このころが、アメンボの交尾（オスがメスに自分の遺伝子をわたすこと）と産卵の時期だからです。

どんな生き物も、自分の子孫を残すため、いっしょうけんめいです。何とか、自分の遺伝子（親の体質や性質を伝えるもの）をメスにわたして、自分の卵を産んでもらわなければなりません。交尾したアメンボのオスは、必ず自分の卵を産んでもらうため、ほかのオスが近づいてこないように、メスが産卵を終わるまで、メスの背中から下りないのです。

### 卵を産むときも、おんぶしたまま

アメンボのメスは、オスを背中におんぶしたまま、水面に一部が出ている植物のくきや、大きな石の、必ず水面すれすれの水中に入った部分に、卵を産みつけます。卵は、ふつう、2週間前後でふ化します。卵から出てきた幼虫は、親と同じような形をしていて、同じように水面にのって、動き回ります。ですから、早く水面に出ないと、おぼれて死んでしまいます。水面によじのぼると、幼虫の体は水をはじくようになり、もう、おぼれる心配はなくなります。アメンボの幼虫は、親と同じように、水面に落ちる小さい虫をとらえ、その体液を吸って大きくなります。（監修・中山 周平）



オスをおんぶしたアメンボ（下はメス）

